

なごや H25.10月号
 にんちしょう
 NEWS

発行：名古屋市認知症コールセンター
 （認知症相談支援センター内）
n-renkei@samba.ocn.ne.jp

「にんちしょう NEWS」は、いきいき支援センターや地域のケアマネジャー向けの情報紙です。ご意見・お問い合わせは、☎763-1552までお願いします。

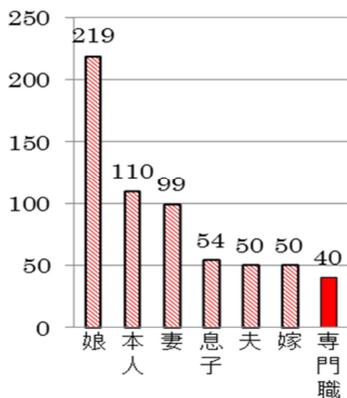
名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日当たりの平均相談件数	本年 6.7月	本年 8, 9月	去年同期 (8.9月)
	2.6 件	3.3 件	2.7 件

コールセンターの相談ケースから…
【ケアマネ等専門職からコールセンターへの相談について】

【相談実績】
 相談者の続柄内訳（上位7位まで）
 （平成24年度） N=722

相談者の続柄



コールセンターへの相談ケースは圧倒的に家族・親族からの相談が多いのですが、ケアマネ等の相談も一定数あります。これは、認知症疾患医療センターの担当者の方と共に各区のケアマネ研修会などに出席させていただき PR することによりです。

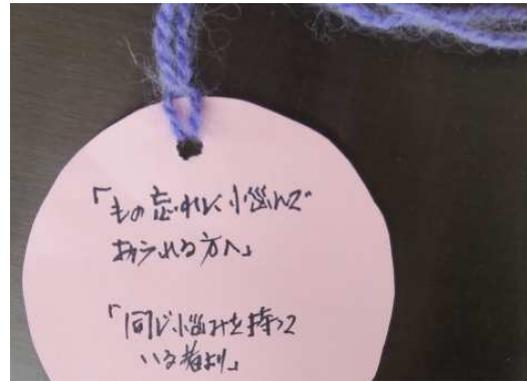
専門職からの相談は、BPSD、家族や近隣との関係のトラブル、介護者の心身の疲労が深刻なケースが多く、それらが3つ同時に起こっていることも少なくありません。また、本人様の拒否により医療や福祉サービスを使っていない場合もあります。

ケアマネ等がケースを抱え込んだいたり、行き詰まっている場合は、当センターからいきいき支援センターの主任ケアマネに相談するなど、地域の支援機関へ丁寧につないで、ケアマネ等の安心感と事態の打開につながるようにしていきたいと思っております。

※「コールセンター」と共に「認知症地域連携体制の強化」、および右記の「若年性認知症相談支援」3つをおこなう部署として 10 月より名古屋市認知症相談支援センターという名称となりました。

若年性認知症相談支援事業が始まります

「認知症になったことはあきらめるが、これからの人生はあきらめない」



医学的な根拠と本人の言葉（想い）に「認知症ケアの原則」がある

藤本クリニック（滋賀県）の「もの忘れカフェ」の取り組みは「仕事カフェ」の“夢”実現に至りつつあります。
「仕事が甘くないことは知っている」

8 月に琵琶湖ほとりのホールで開催された「NPO もの忘れカフェの仲間たち」創立記念講演会では、就労に取り組もうとする認知症の人の力強いことばが紹介されていました。写真は、認知症の人が一枚一枚書いた直筆のメッセージカードです。講演会の参加者ひとりひとりに配られました。

【藤本直樹先生講演会】（予約不要）
 「若年性認知症に関する啓発講演会」
 10/27（日）13:30～15:30 千種区役所講堂

診断後空白期間を作らないための取り組み——藤本クリニックの取り組みは、「初期から進行期まで病期の全経過をフォローするケアが必要」と、軽度から重度まで、若年から高齢期までカバーする実践を行い、地域をまきこんでのネットワークづくりにまで広がっています。

名古屋で若年性認知症の本人・家族交流会が始まりました

若年性認知症の方の人数は名古屋市に約 1000 人いると推計されており、平均するといきいき支援センター圏域ごとに約 35 の方がいらっしゃると考えられます。**若年性認知症は、制度や社会資源の狭間でサポートに繋がらないまま孤立している本人（とその世帯）が**——特に初期で生活機能が自立している方の中には——地域に少なからずいる可能性があります。

若年性認知症の方への支援は、**医療・福祉のみならず就労支援も含めて多岐わたり**、いきいき支援センター、高齢者・障がい者分野、ほか多彩な機関が連携して取り組めるよう、当相談支援センターとしても社会資源や支援ノウハウなどの情報を集約しながら、事業に取り組んでいきたいと思っております。

そして、**「認知症になったことはあきらめるが、これからの人生はあきらめない」**（藤本直樹著「認知症の医療とケア」本人のことば）

このような力強いことばをこの名古屋でも、ひとりでも多くの方から聴くことができるようになればと思います。

